津波から身を守る最大のポイントは、早く逃げることです。
津波による災害の発生が予想されたら、直ちに避難しましょう。

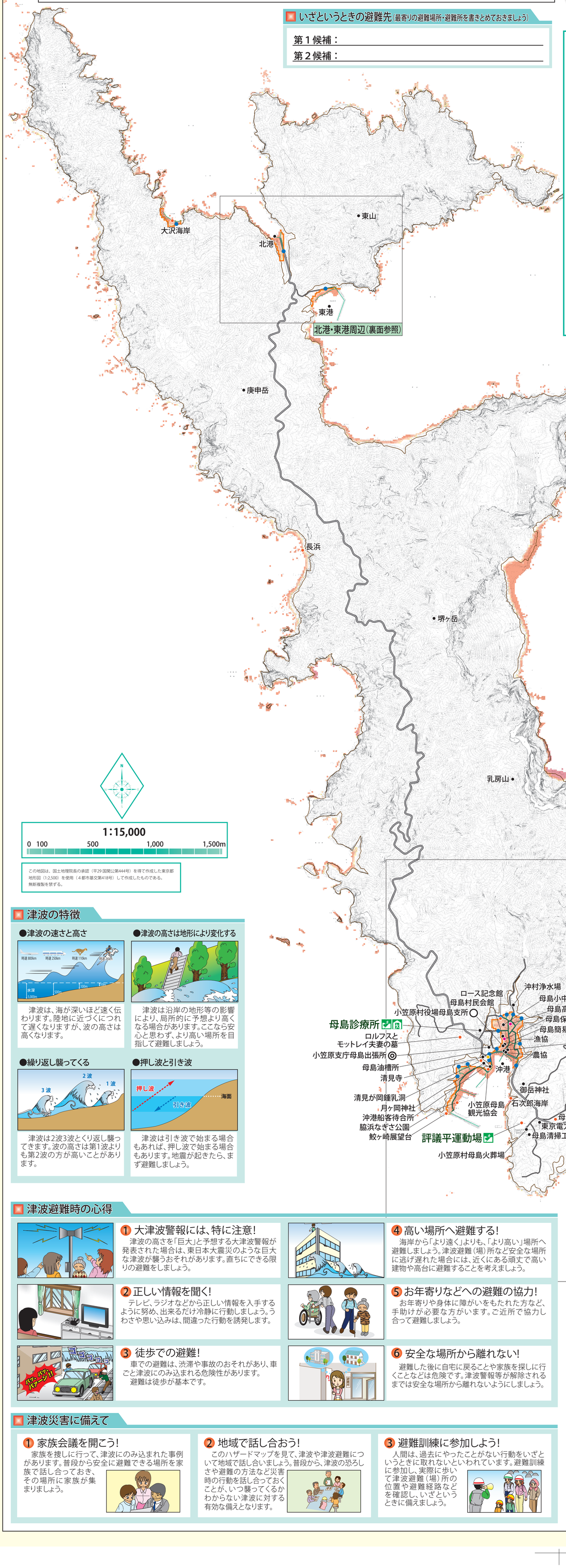
保存版（令和6年1月作成）

母島津波浸水ハザードマップ基本図

いざというときの避難先（最寄りの避難場所・避難所を書きとめておきましょう）

第１候補：

第２候補：



1:15,000
0 100 500 1,000 1,500m

この地図は、国土地理院長の承認（平29 国関公第444号）を得て作成した東京都地形図（1:2,500）を使用（４都市基交第418号）して作成したものである。
無断複製を禁ずる。

津波ハザードマップについて

近年、全国において大雨による洪水などの自然災害が多発しています。島しょ地域においては、令和元年9月の台風15号により甚大な被害が発生しました。一方、南海トラフ巨大地震の発生確率は30年以内に70~80%とされ、大きな津波の発生が想定されています。

このような災害から身を守るためには、日ごろからの準備と、災害発生時には危険な場所からの避難が重要になります。

東京都は、令和4年5月25日に「首都直下地震等による東京の被害想定」を公表し、津波の予測を更新しました。

小笠原村では、都が公表している津波の浸水域等の資料をもとに、災害の危険、津波警報等の情報や取るべき避難行動、避難場所等を示した津波ハザードマップを更新しました。

このハザードマップを使って、自分の家や学校・職場周辺の浸水リスク（予想範囲や深さ）を把握し、地震や津波の時の避難先や避難経路の確認等を日頃から家族や地域で話し合っておきましょう。また、村が実施する避難訓練に参加し、いざというときに備えましょう。

令和6年1月作成

小笠原村総務課
電話:04998-2-3111（代表）

インターネットによる防災情報の入手先

防災 小笠原村公式サイト
●村内の防災に関する情報
▸ https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/soumu/bousai/

東京都防災情報
●都内の避難場所など災害に関する情報
▸ https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/

気象庁
●村内の気象や災害、洪水予報に関する情報
PC版▸ https://www.jma-net.go.jp/tokyo/

大津波警報・津波警報・津波注意報の分類と取るべき行動

気象庁は、地震が発生したときには地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約３分を目標に、大津波警報（特別警報）、津波警報または津波注意報を津波予報区単位（本島は、小笠原諸島予報区に属します）で発表します。

種類	予想される津波の高さ 数値での発表（発表基準）	予想される津波の高さ 巨大地震の場合の表現	想定される被害	取るべき行動
大津波警報（特別警報）	10m超（10m＜高さ）	巨大	木造家屋が全壊・流出し、人は津波による流れに巻き込まれます。	沿岸部や川（沢）沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。
	10m（5m＜高さ≦10m）			
	5m（3m＜高さ≦5m）			
津波警報	3m（1m＜高さ≦3m）	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!
津波注意報	1m（0.2m≦高さ≦1m）	（表記しない）	海の中では人は早い流れに巻き込まれます。小型船舶が転覆します。	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。

※地震発生初期において、地震の規模や震源の位置が把握できない場合には、津波の高さを正確に予測することが困難であるため、津波の高さを定性的表現で発表します。

津波情報

地震（津波）発生

約3分 **津波警報・津波注意報（第1報）**
想定される津波の高さを「巨大」、「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。

津波情報（警報・注意報に併せて発表）
- 津波到達予想時刻・予想される津波の高さ
- 各地の満潮時刻
- 沿岸で観測した津波の時刻や高さ、沖合の観測値から推定される沿岸での津波の到達時刻や高さ

約15分 **津波警報・津波注意報（詳細）**
想定される津波の高さを、1m、3m、5m、10m、10m超の5段階で発表します。

地震発生後、津波による災害が起こるおそれがない場合には、以下の内容を津波予報で発表します。

津波注意報解除後も海面変動が継続
海に入っての作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要
0.2m未満の海面変動が予想
被害の心配は無く、特段の防災対応の必要は無い

※津波が予想されないときは、津波の心配なしの旨を地震情報に含めて発表します。

津波警報等の伝達経路

津波警報等は、下図に示すような経路で伝達されます。

気象庁
大津波警報・津波警報・津波注意報・津波情報

小笠原村役場（災害対策本部）
高齢者等避難　避難指示　緊急安全確保

テレビ ラジオ / ホームページ / 防災行政無線 / 広報車 / IP告知端末

島民の皆さん

津波の特徴

●津波の速さと高さ

津波は、海が深いほど速く伝わります。陸地に近づくにつれて遅くなりますが、波の高さは高くなります。

●津波の高さは地形により変化する

津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。

●繰り返し襲ってくる

津波は2波3波とくり返し襲ってきます。波の高さは第1波よりも第2波の方が高いことがあります。

●押し波と引き波

津波は引き波で始まる場合もあれば、押し波で始まる場合もあります。地震が起きたら、まず避難しましょう。

津波避難時の心得

1 大津波警報には、特に注意!
津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。

4 高い場所へ避難する!
海岸から「より遠く」よりも、「より高い」場所へ避難しましょう。津波避難（場）所など安全な場所に逃げ遅れた場合には、近くにある頑丈で高い建物や高台に避難することを考えましょう。

2 正しい情報を聞く!
テレビ、ラジオなどから正しい情報を入手するように努め、出来るだけ冷静に行動しましょう。うわさや思い込みは、間違った行動を誘発します。

5 お年寄りなどへの避難の協力!
お年寄りや身体に障がいをもたれた方など、手助けが必要な方がいます。ご近所で協力し合って避難しましょう。

3 徒歩での避難!
車での避難は、渋滞や事故のおそれがあり、車ごと津波にのみ込まれる危険性があります。
避難は徒歩が基本です。

6 安全な場所から離れない!
避難した後に自宅に戻ることや家族を探しに行くことなどは危険です。津波警報等が解除されるまでは安全な場所から離れないようにしましょう。

津波災害に備えて

1 家族会議を開こう!
家族を捜しに行って、津波にのみ込まれた事例があります。普段から安全に避難できる場所を家族で話し合っておき、その場所に家族が集まりましょう。

2 地域で話し合おう!
このハザードマップを見て、津波や津波避難について地域で話し合いましょう。普段から、津波の恐ろしさや避難の方法など災害時の行動を話し合っておくことが、いつ襲ってくるかわからない津波に対する有効な備えとなります。

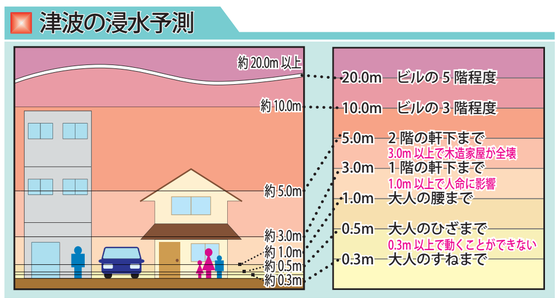
3 避難訓練に参加しよう!
人間は、過去にやったことがない行動をいざというときに取れないといわれています。避難訓練に参加し、実際に歩いて津波避難（場）所の位置や避難経路などを確認し、いざというときに備えましょう。

各地での最大津波高と最短到達時間

地点名	最大津波高	最短到達時間 30cm津波高	最短到達時間 最大津波高
南海トラフ巨大地震による津波			
沖港	12.1m	85.4分	87.5分
母島漁港（東港）	10.6m	87.2分	99.4分
母島漁港（北港）	8.5m	85.2分	101.5分
島全体	16.0m	84.2分	86.1分
大正関東地震による津波			
沖港	1.5m	153.9分	269.8分
母島漁港（東港）	1.1m	160.1分	204.8分
母島漁港（北港）	1.2m	183.4分	298.1分
島全体	1.7m	153.9分	158.1分

※各値は「首都直下地震等による東京の被害想定」(令和4年5月公表) における被害想定ケースから以下の考え方で表記しています。
※最大津波高は、津波の高さが最大となるケースの値を、最短到達時間は30cmまたは最大津波高の到達時間が最短となるケースの値を表記しています。

地図の見方

凡例	
	津波避難場所
	津波避難所
	避難対象地域
	避難目標地点
	避難経路
	標高20mの等高線
	都支庁
	村役場
	警察
	危険物貯蔵所
	要配慮者関連施設
	観光地
	その他の施設等
	主要道路

津波の浸水予測